



小樽の近代化遺産を学ぶ

～第14回小樽港フィールド・ラーニング（O.F.L.）～

小樽港は日本近代築港の原点であり、我が国初の近代築港の計画、築造における廣井勇博士（初代小樽港湾事務所長）の工学の考え方と人間廣井勇を育てた時代背景及び歴史的史実等を学ぶことを目的とし、小樽開発建設部では平成23年度より「小樽港フィールド・ラーニング」を開催しております。

第14回目の開催に当たる今回は「小樽港北防波堤の設計、小樽運河と小樽のまち」をテーマに、下記のとおり開催しますので、お知らせします。

※ O.F.L.とは、「小樽港（Otaru）で実物を見ながら（Field）習得（Learning）する」の略語です。

記

- 開催日時：令和5年12月13日（水）15：00～（2時間程度）
- 開催場所：小樽港湾事務所（小樽市築港2番2号）
- 開催形式：対面＋Web開催（Microsoft Teams）
- 講演・講師
講演1「北防波堤の設計に思いを馳せる」
講師：早川 篤（小樽港湾事務所 所長）
講演2「小樽「運河」と小樽のまちの100年」
講師：石川 直章 氏（小樽市総合博物館 館長）
- 参加者：自治体及び民間企業の港湾又は漁港の担当者等
- 開催内容：詳細は、別紙1を御覧ください。
- その他
1）参加、取材を希望される方は、別紙1を御覧いただき11月30日（木）15時までにお申込みください。
2）対面で参加される場合は人数の都合によりお断りする場合がございます。



【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 小樽開発建設部

小樽港湾事務所 保全課長 藤由 幸大（電話 0134-22-6131）

小樽港湾事務所 保全課 課員 大越 孝（電話 0134-22-6131）

（小樽開発建設部ホームページ） <https://www.hkd.mlit.go.jp/ot/>

公式X（旧Twitter）アカウント @mlit_hkd_ot



＝近代築港の原点・小樽港に学ぶこと＝

小樽港は日本近代築港の原点であり、その第一に整備された北防波堤の計画と実施における、将来の人口や地域の生産量の予測に基づく移出量の推定、他のインフラ整備に呼応した投資の必要性などの計画的観点及び耐海水性コンクリートの製作、波に粘り強い防波堤構造などの技術的観点は、今なお港湾整備の根幹となっています。

小樽築港開始時の計画、調査、設計、施工を始め、我が国初の近代築港の計画、築造における廣井勇博士(初代小樽港湾事務所長)の工学の考え方と人間廣井勇を育てた時代背景及び歴史的史実等を学ぶことにより、港湾技術者としての意識、技術、知識、港湾を含む社会資本整備の計画及び説明力等の向上に効果的であり、小樽港(Otaru)で実物を見ながら(Field)習得(Learning)する意義は大きいと考え、平成23年度から『小樽港フィールド・ラーニング(O.F.L.)』を開催し、北海道開発局内外の関係者から講演等をしていただいたところです。

今回は、平成15～16年度に設計係長として北防波堤改修設計に携わった北海道開発局小樽港湾事務所 所長の早川篤から「北防波堤の設計に思いを馳せる」と題して講演させていただきます。また、小樽運河が完成して100周年に当たることから、小樽市総合博物館 館長の石川直章氏から「小樽「運河」と小樽のまちの100年」と題し、小樽運河が誕生した背景や小樽港埠頭整備によりその使命に終わりを告げ、荒廃していく変貌等について御講演をさせていただきます。

記

1. 第14回 小樽港フィールド・ラーニング (O.F.L.)

【日時】令和5年12月13日(水) 15:00～(2時間程度)

【場所】小樽港湾事務所

【形式】対面+Web形式 (Microsoft Teams)

【講演1】「北防波堤の設計に思いを馳せる」…30分

講師 北海道開発局 小樽港湾事務所 所長 早川 篤

【講演2】「小樽「運河」と小樽のまちの100年」…60分

講師 小樽市総合博物館 館長 石川 直章 氏

【参加者】自治体及び民間企業の港湾又は漁港の担当者

【CPDS】(社)全国土木施工管理技士連合会のCPDS 学習プログラムに申請予定。

【留意事項】・スマートフォン、携帯電話は音が出ないように、電源をお切りいただくかマナーモードの設定をお願いします。

・Web 形式の場合、講演中は音声、カメラを OFF で参加をお願いします。

2. 申込み・問合せ先

小樽開発建設部小樽港湾事務所保全課(電話0134-22-6131)

保全課長 藤由 幸大 : fujiyoshi-y22aa@mlit.go.jp

保全課員 大越 孝 : ookoshi-t22aa@mlit.go.jp

※参加申込書については、別紙2に必要事項を記載して、上記メールアドレスご送付ください。

小樽港フィールド・ラーニング 第1回から13回までの開催内容

回	年月日	内 容
1	H24.1.17	<p>テーマ「廣井勇博士(初代小樽築港事務所長)に見る技術者精神」 北海道開発局港湾空港部長 栗田 悟 氏</p> <p>「材料を巡る情勢と課題への対応ーコンクリートの時代的背景ー」 公共土木の本質的な役割や技術の開発・研究・実践の重要性と技術者に必要なコンプライアンスを学ぶ。</p>
2	H24.8.2	<p>テーマ「小樽築港の計画的アプローチ」 北日本港湾コンサルタント株式会社社長 上原 泰正 氏</p> <p>「廣井勇に学ぶ」 廣井博士が指揮監督した小樽築港を通し、近代日本の港湾計画の考え方や港湾荷役、ふ頭経営に対する考え方を学ぶ。</p>
3	H25.7.18	<p>テーマ「港湾工学史における広井波力式の位置づけ」 日本データサービス株式会社副社長 関口 信一郎 氏</p> <p>「広井波圧式の背景と成立」 波圧式のみならず、調査、計画、設計、施工の全分野において港湾工学を現在の水準に近似するまで向上させた廣井勇博士の業績について学ぶ。</p>
4	H26.10.1	<p>テーマ「小樽築港の検証」 株式会社西村組 札幌支店長 中村 弘之 氏</p> <p>「小樽港北防波堤構造の秘密」 1世紀以上に亘って存在している小樽港北防波堤で用いられている築設の技術を検証し、その姿から、「日本近代港湾建設の父」といわれる廣井勇博士の未来を見据えた技術と設計の確かさの証を学ぶ。</p>
5	H27.11.26	<p>テーマ「小樽港創成期における北防波堤施工の工夫」 勇建設株式会社 営業部 部長 大倉 正憲 氏</p> <p>「小樽港北防波堤の施工」 明治初期から小樽港北防波堤着工までの小樽を取り巻く社会情勢を概観した上で、廣井勇博士が小樽港北防波堤施工において確立した技術(工夫)について学ぶ。</p>
6	H28.12.9	<p>テーマ「連続講演に当たって～世界・日本・北海道の動きと廣井勇博士。北海道の歴史と開拓」</p> <p>日本データサービス株式会社 顧問 関口 信一郎 氏</p> <p>連続講演に当たって、廣井勇博士の生涯を深く知るために江戸時代に蝦夷地と言われた北海道と日本・世界の社会情勢や北海道開拓の歴史について学ぶ。</p>
7	H29.2.21	<p>テーマ「北海道開発の歴史～廣井勇の生涯」 日本データサービス株式会社 顧問 関口 信一郎 氏</p> <p>「物資輸送と水運・世界を変えた道路と鉄道」 文明の発展に欠かせない物資輸送と水運や世界を変えた道路と鉄道などの土木技術について世界や日本の歴史から学ぶ。</p>

回	年月日	内 容
8	H29.7.21	<p>テーマ「北海道開発の歴史～廣井勇の生涯」 日本データサービス株式会社 顧問 関口 信一郎 氏 「廣井勇の生涯と業績」 廣井勇博士の生き方や数々の業績から科学的思想や工学の精神、土木技術者としての仕事観を学ぶ。</p>
9	H29.10.6	<p>テーマ「北海道開発の歴史～廣井勇博士の生涯」 日本データサービス株式会社 顧問 関口 信一郎 氏 「近代築港と小樽築港」 近世以降の世界的な港湾整備の流れ、我が国の築港の歴史から、廣井勇博士の功績について学ぶ。</p>
10	H30.7.17	<p>テーマ「北海道築港史—廣井勇と北海道開拓」 日本データサービス株式会社 顧問 関口 信一郎 氏 北海道における近代築港学の発展と我が国近代港湾工学の確立・発展への貢献について学ぶ。</p>
11	H31.3.1	<p>テーマ「廣井勇と釧路港修築計画」 萩原建設工業株式会社 特別顧問 関口 信一郎 氏 廣井勇博士による港湾修築計画の事例として釧路港の計画について学ぶ。 【報告】「今年度の O.F.L. について～小樽港北防波堤について新たに確認されたこと～」 小樽港湾事務所 計画課 本間 薫 平成30年度、北防波堤について新たに確認された内容について報告。</p>
12	R4.3.11	<p>テーマ1「小樽運河建設の真実」 萩原建設工業株式会社 特別顧問 関口 信一郎 氏 廣井勇博士と小樽運河建設の係わりについて学ぶ。 テーマ2「小樽港北防波堤の起点調査について—昭和からの文献を辿って—」 株式会社クマシロシステム設計 小樽営業所長 安田 邦明 氏 小樽港北防波堤の起点について学ぶ。</p>
13	R4.12.13	<p>テーマ1「小樽港防波堤 ～小樽の街と港湾活動を支えて100年～」 大倉 正憲 氏 テーマ2「世界の水運と廣井工学」 萩原建設工業株式会社 特別顧問 関口 信一郎 氏 廣井勇博士の工学の考え方が世界各地の港へ広く与えた影響等を学ぶ。</p>

